



Careoth People Stories

CAREOTH PICKS

VOL
33
2026

【小規模多機能ホーム／グループホーム ゆうゆう御幸】 明るい。きれい。ICT導入。「空くまで待つ」と言われる住まい

2023年9月に開設した「ゆうゆう御幸」。通いを中心に訪問・泊りも組み合わせる小規模多機能ホームと、重度になっても馴染んだ場所での最期まで過ごせるグループホームを併設しています。常に待機者がいるという人気の理由を、ホーム長の谷夏美さんに施設を案内してもらいながら伺いました。



自然光が差し込む、グループホームの共有スペース。

「御幸が空くまで待つ」と言われる住まい

のどかな加茂川沿いに立つ「ゆうゆう御幸」。1階のグループホームはユニット9人の2ユニットで、現在18人が入居しています。2階の小規模多機能ホームでは29人が、通い・泊り・訪問を組み合わせ利用中です。「グループホームは大人気で、常に待機者がいる状態。家賃設定は高めですが「御幸が空くまで待つ」と入居を希望される方が多いです」と谷さん。自家用車をお持ちでないご家族もいるため、JR万能倉駅から徒歩7〜8分という立地の良さも、選ばれる理由のひとつです。

「温かく柔らかな。細部まで考えられた空間」

共有スペースは自然光が差し込む広々とした空間。床の色やカーテンは、施設を建てる時のホーム長が「温かく柔らかな感じに」と選んだものです。芳香剤を置き、室内の匂いにも気を配っています。居室はピアノを持ち込んだり趣味のものを飾ったりと、その人らしさがあふれる空間に。窓の外に広がる景色にも癒やされます。



ピアノを持ち込んだ居室。その人らしさがあふれます。

「ゆうゆうで御幸だけ。全居室の見守りモニター」

一番の注目ポイントが、各居室に設置された見守りモニターです。室内で動きがあれば事務室の端末の画面の色が変わり、すぐにカメラの映像を確認できます。何が起きているのかを把握し、迅速に対応できるのが魅力です。



案内してくださったホーム長の谷夏美さん。



のどかな加茂川沿いに立つ「ゆうゆう御幸」。



介護現場でのICT導入は進みつつありますが、各居室にモニターを設置しているのは、ゆうゆうでは御幸のみ。映像は過去に遡って確認できるので、ご家族からも安心できることとお言葉をいただいています。昨年、重度の認知症の方が夜間に転倒した際も、直前の映像から原因と経緯の究明につながりました。

「職員が同じ方向を向くための「ゆうゆう5カ条」」

2つのユニットが同じフロアにあるのも特徴です。廊下を隔てて配置した設計のため、お互いの状況を把握しやすく、スタッフ同士が助け合える環境になっています。小規模多機能ホームでは、対応が困難なケースでも職員とケアマネージャーが連携し、「必要だから相談してくれている」と考えて受ける方向で調整します。谷さんが大切にしているのは、利用者さんと触れ合うこと、そして職員が同じ方向を向くこと。毎朝「ゆうゆう5カ条」を唱和しています。



毎朝唱和する「ゆうゆう5カ条」



各居室の天井に設置された見守りモニター。



動きがあると画面の色が変わり、すぐ映像を確認できます。



「地域に開けた施設にしていきたい」と語るスタッフのみなさん。



人をつないでケアする企業

Careoth People Stories

CAREOTH PICKS

 VOL
 34
 2026

【夢門塾】先生だって、学んでいるんです！

先生たちの学び舎「MUMONアカデミー」に潜入

夢門塾で学んでいるのは、子どもたちだけではなく、先生たちにも学びの場があります。その名は「MUMONアカデミー」。発達障がいや行動分析学の基礎から、実際の業務、リーダーシップまで、段階に応じて学ぶ職員研修です。支援のプロフェッショナルを目指す先生たちの学びをご紹介します。



先生だって、学んでいるんです！

子どもたちの「やってみたい!」を支えるために。
私たちも、学び続ける。

MUMONアカデミー

3年間で一人前へ。
1回生から3回生までの学び

夢門塾では、新しく働きはじめた職員を対象に、3年間で学びを深める「MUMONアカデミー」を実施しています。1回生では、発達障がいに関する基礎知識や行動分析学の基本など、支援に欠かせない内容を座学中心にしっかりと身につけます。2・3回生では、事前アンケートをもとに講義内容を決定。理解の再確認に加え、2・3年目に直面しやすい悩みを乗り越えるためのメンタル面のサポートも含まれます。後輩を導くためのリーダーシップも学び、現場での役割を広げていきます。3年間を通じて、社会人としての基本的なルールやマナー、課題解決の姿勢も丁寧に指導します。

「支援のプロフェッショナル集団」であるために

アカデミーが始まった背景には、「支援のプロフェッショナル集団であることが、事業づくりに欠かせない」という考えがありました。これまで現場では職員がそれぞれ個別に学んでいたものの、事業部として専門的な研修の場はありませんでした。そこで、支援に必要な知識を学べる場としてスタート。現場経験を積みながら研修で知識を身につけ、3年間で一人前の成長を目指します。同期と学び合う環境が、互いの成長を後押ししています。

MUMON
アカデミー
佐藤 響先生

MUMON
アカデミー
米 美乃里先生

障がい名だけで、その子を捉えない

アカデミーで繰り返し伝えられているのは、障がい名や診断名だけで子どもたちを捉えないことです。血液型や星座だけで性格を決めつけられないのと同じように、診断名だけではその人自身を理解することはできません。性格や好きなもの、苦手なこと、強みやサポートが必要な部分、家庭や学校での様子。さまざまな面に向け、一人ひとりをしっかりとすることが必要です。そして子どもたちと信頼関係を築き、その子らしさを見ながら支援の大切さを学んでいきます。

「関わるすべての人と、
「統一した支援を

アカデミーでは、子どもたちに関わる関係者との連携についても学びます。保護者や学校の先生、相談支援専門員、ほかの放課後等デイサービスの職員など、一人の子どものに関わる人はさまざま。夢門塾の職員もその一人としてそれぞれの立場に寄り添いながら、子どもの状況や支援の方向性について共通理解をもつことが求められます。保護者の不安や悩み、子どもの将来への思いを丁寧に受け止め、言葉にして共有する姿勢を重視。専門性だけでなく、相手に安心してもらえる関わり方を身につけていきます。

MUMONアカデミーが目指すのは、職員一人ひとりが「支援のプロフェッショナル」への第一歩を踏み出すこと。子どもたちの「やってみたい」を後押しするために、支援する職員自身も楽しみながら挑戦できる環境を大切にしています。



CAREOTH
人をつないでケアする企業

Careoth People Stories

CAREOTH PICKS

VOL
35
2026

【和井田保育園】先生たちの「本気」が炸裂！

ワクワクが止まらない、お祭りごっこの製作に迫る

岡山県倉敷市児島の「和井田保育園」。0歳から6歳までの子どもたちが、主体性を大切にのびのびと過ごしています。園のブログに並ぶのは、本物そっくりでリアルな製作物の数々。今回はその製作へのこだわりを、先生方に取材しました。



本物さながらの屋台に、子どもたちの「いらっしやいませー！」が響きます。



本物そっくりの道具を前にすると、子どもたちは遊び方を説明されなくても、すぐに自分たちで遊び始めます。「いらっしやいませー！」「おいしいですよー！」とお客さんになりきる子。園いっぱいに「これくさい！」「これくさい！」と活気が広がります。役割を決め、順番決めや交代も自分たちで。姉妹園「下の町乳児保育園」へ製作物を持ち込んだときは、2歳児さんも説明なしで遊びの輪に入り、5歳児さんが「食べるマネするだけだよ」とやさしく声をかける姿も見られました。

★「説明なし」で遊びが始まる、
本物顔負けの活気



焼きトウモロコシは包装材のプチプチ。焼き台ごと手作りです。



新聞紙を丸めて作った焼き芋。箱もしっかり作り込まれています。

★身近な廃材が、リアルで可愛い食べ物に変身
新聞紙や段ボール、ペットボトルなどの廃材に、100円均一のアイテムを組み合わせて、かわいくリアルな食べ物が生まれます。焼き芋は新聞紙、焼きトウモロコシは包装材のプチプチ。「加工しやすいこと」「思いきり遊んでも壊れにくいこと」が素材選びのポイントです。大切にしているのは、子どもたちがいま何に興味があるか。「焼き鳥屋さんをやってみよう！」「というリクエストがあれば、一緒に紙を丸めて作ることもあります。そして、夢中になって遊べるのは「安心」があるから。角は丸くカットし、誤飲につながらない大きさを意識してパーツは結束バンドで固定。喉に刺さると危険な割り箸は使わず、紙を巻いた筒やストローを使います。加工と素材の安全性を高めることは、絶対のルールです。

「おいしそうに作れたら自分たちもうれしいし、本物以上にテンションが上がるんです」と笑う先生方。子どもたちが目を輝かせる姿を見れば、大変さは吹き飛ぶのだそう。これからも「何があったらうれしい？」と聞きながら作っていきたいですね。



「本物以上にテンションが上がるんです」と笑う先生方。

★無理なく続けるための、働き方の工夫
これだけ充実した製作を続けられるのは、園全体で働き方を工夫しているからです。毎年使うだんじりや屋台セットは、壊れたところだけを修理して再利用。事務所には「作るもの」「完成したもの」「未着手のもの」が分かる分担表を掲示し、お昼寝中などの30分ほどのスキマ時間に、クラスの枠を越えてできる人ができることを進めます。行事の規模も見直し、負担や残業を抑えながら、子どもたちの楽しさを守っています。

★無理なく続けるための、働き方の工夫

★大人が作り込みすぎない。
子どもの手が入る余地
先生が用意した土台に子どもたちが塗った絵を貼ってだんじりを完成させたり、ジュースの中身を紙で作ったり。あえて子ども自身の手が入る余地を残しています。「これ、私たちが作ったやつなんよー！」「こうやって食べるんよー」と得意げに教えてくれる子どもたち。「自分たちが作ったという実感が、遊びへの愛着や、モノを大切にする気持ちにつながっています。」



子どもたちが絵を貼って仕上げただんじりや神輿。園庭に活気が広がります。



「いらっしやいませー！」本気の呼び込みが始まります



買ったごちそうを手に、この笑顔



姉妹園でも屋台ごっこ。年下の子もすぐに遊びの輪へ





Careoth People Stories

CAREOTH PICKS

 VOL
36
 2026

【第二管理部 (人事部)】人事ってどんな仕事？ 働く人をガッチリ支える！縁の下の力持ち



「人事部」という名称はよく耳にしますが、実際はどんな仕事をしているのでしょうか。社会人未経験の方はもちろん、同じ社内においても詳細は知らなかったりするもの。人事担当者は、採用の際に電話やメールでやり取りする窓口になったり、研修をサポートしたりと、キャレオスで働くうえでの「ハブ」のような存在です。今回は人事を代表する4名にお話を伺い、さらに個性的なキャラクターが揃ったメンバーにアンケートを実施しました。

採用・育成・活躍・定着。 4つのサイクルを回す

第二管理部部長 坂東 正三さん

4月から「第二管理部」と名称が変わり、西日本7名、関東3名のメンバーが所属しています。キャレオスが提供する福祉サービスは人材が資本。各事業部で働く方々が安心して最高のサービスを提供するための基礎となるのが人事の役割であり、採用・人材の開発・育成・活躍・定着という4つのサイクルを円滑に回すためにある部署です。「人事部って実際は何をしているの？」とよく言われるのですが、キツキツした仕事ではなく、面談や採用のための資料づくりなど、泥臭く地道な業務の連続です。経営陣との距離も近く、M&Aや新規事業のスタート時など、会社の新しい動きにいち早く対応し、各事業部が最大の能力を発揮できる土台を整えます。時には一人ひとりの役割を超えて一枚岩として動ける「機動力のあるチーム」を目指しています。

学び続ける仕組みを、 会社の土台に

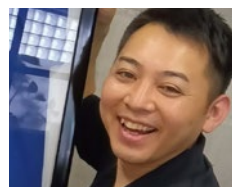
第二管理部 人材開発課 課長 松井 亨介さん

人材開発課は度他の課と統合され、今年5月に復活した名称で課としてはまだまだ発展途上の段階。会社として「100億宣言」に取り組むにあたり、人材の育成・開発は欠かすことのできない重要な要素です。採用を経て仲間に加わった人材がまずは職場に馴染んでいただけるようサポートする定着支援も私の役割です。新卒向けの新人研修、中途入社向けの研修、管理者層向けの研修、施設長・マネージャー向けのESS研修など、社内研修はかなり整備が進んでいます。さらに、キャレオスらしい活躍とキャリアの支援として、新たに「クロスボーダー制度」がスタートしました。入社時は不安そうだった方が自信をつけ、見違えるような顔になる。その姿に私自身も刺激を受けています。



会社の顔として、 一人ひとりに合わせて 第二管理部 採用課係長 陶山 知幸さん

入社時から3年間、中途採用を担当しています。欠員が出た際にハローワークや各種求人サイト、エージェントなどに求人情報を掲載し、迅速に採用へとつなげることが重要。目につきやすく、好印象を持ってもらいやすいよう、文言やデザイン、写真の活用方法などを工夫しています。前職では医療福祉業界の転職エージェントの営業をしており、私自身も転職でキャレオスに入社しました。介護福祉業界は慢性的な人材難で、企業は常には選ばれる側にあります。会社の顔として自身の行動が会社のイメージを落としてしまわないよう、挨拶や表情などの接遇面には特に気をつけています。未経験で入社した方が事業所の中心メンバーになっていたりと、自身が採用に携わった方が現場で活躍している姿を見ることが何よりうれしいです。



就活の不安が分かるから、 寄り添える

第二管理部 新卒採用担当 三村 俊輝さん

学生を対象とした新卒の採用活動は、会社を知ってもらうことから始まります。地元では『ゆうゆう』『夢門塾』といった施設名は広く知られている方だと思いますが、企業名としての認知度はそれほど高くありません。合同企業説明会であれば、立ち寄ってもらいやすいブースのレイアウトやデザインになるよう工夫し、目で魅力が伝わる資料を準備します。私自身も5年前まで学生だったので、就活の不安は痛いほどよく分かります。単に会社の説明をするだけでなく、働くとはどういうことなのか、社会人としてのマナーなど、就活のためになる情報も伝えるようにしています。また、合否に関わらず一次選考のフィードバックも必ず行います。自分が最初に話した学生が会社を気に入って応募してくれ、採用につながる事が何よりの喜びです。



人事部メンバー図鑑 ～特技、聞いてみました～

堅い仕事に見えて、実は個性派ぞろい。採用の窓口になるメンバーの素顔を、ちょっとのぞいてみました。



氏名	所属・肩書	特技(ボケ可)	メッセージ
地崎 安奈さん	第二管理部 採用課 新卒採用担当	「絶妙な間」で行う、 空気の微調整	知識やスキルよりも、あなたの想いや人柄を大切にしています。 未経験からでも安心して挑戦できます。
森 彩音さん	第二管理部 採用課 中途採用担当	ご飯を食べるのが 早いです	みなさんの「働きたい」を応援します☆
加納 三紗子さん	第二管理部 採用課 中途採用担当	ものすごく寝る	会社全体を盛り上げたり、社内イベントが好きな方にはぴったりな会社です。
成田 咲笑さん	東京本社 採用係	無意識に 天井を見る	人と人のつながり、心でのケアに関わりたい方、 ぜひ一緒に働きましょう！
西山 恭子さん	東京本社 採用係 係長	できる人オーラを 出すこと	真剣に求職者様の未来を考えています。 一緒に生きがいを感じられる環境をつくりましょう。
浅坂 千聖さん	東京本社 採用係	人の顔と名前を 覚えること	やってみたいことが実現しやすい会社です。 熱い想いのある方の入社をお待ちしています！